

第 80 回国連総会

第 4 回非感染性疾患 (NCDs) に関するハイレベル会合

江副交渉官 ご発言原稿 (案)

2025 年 9 月 25 日

(3 分)

1. はじめに

議長、国連事務総長、各国代表及びご列席の皆様、本日、ここに日本政府を代表して、我が国の考え方をお話できることを大変光栄に思います。

(政治宣言が承認されていれば) また、第 4 回ハイレベル会合の政治宣言の承認も歓迎いたします。

2. 日本の健康づくりと NCDs 対策

わが国では、高齢化や生活習慣の変化に伴う疾病構造の変化を背景に、健康づくりや NCDs 対策を進める重要性への認識が高まり、社会全体の課題として取り組んでまいりました。日本版のユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) である国民皆保険制度と相まって、世界有数の健康寿命を誇る健康長寿国を築くことが出来ました。

日本においては、社会の多様化や高齢化社会の進展により、地域・個人の特性をより重視し、健康づくりや NCDs 対策を進めることが重要であると考えています。現在の健康状態は、これまでの生活習慣や社会環境等の影響を受ける可能性があることから、幼少期から老年期まで、人生の各段階で異なる健康課題を経時的に捉えるライフコースアプローチの観

点を踏まえた健康づくりが、生涯にわたり活動的な生活を送るために重要であると考えています。

●そのためには、Local governments との連携が重要だと考えます。健康づくりや疾病対策に関する法の整備を行うとともに、地方自治体において、住民の健康増進や、がん、循環器疾患等の NCDs に係る医療提供体制に関する計画の策定を進め、必要な事業を実施することとしており、政府の施策を国民に届けるための仕組を整備する重要性を強調します。

また、multi-sectoral な連携も重要であり、国と地方公共団体のいずれにおいても、保健・医療・福祉のみならず、教育や経済・産業、まちづくりなどの分野や、行政のみならず、民間部門等の連携も必要です。

3. UHC

NCDs 及びメンタルヘルス対策の推進には、継続的なケアを提供する体制の構築が欠かせず、そのためには自国資金の動員により保健財政を強化することを通して強靭な保健システムの構築、つまりユニバーサル・ヘルス・カバレッジの達成が不可欠です。

特に脆弱な人々は、その置かれた状況から医療アクセスが困難となりがちです。全ての人が公平に医療を受けられるような社会を目指すことは、社会的保護の強化につながります。

こうした考え方の下、日本政府は、WHO や世界銀行と連携し、開発途上国における UHC 達成のための保健財政の強化を目的とし、知見収集や人材育成を行う世界的な拠点として、

「UHC ナレッジハブ」の取組を進めており、本年 12 月 6 日には UHC ハイレベルフォーラムの開催を予定しているところです。

4. 保健を通じた国際協力

- わが国はこれまで、WHO を通じた NCDs やメンタルヘルス対策を支援しており、特に、西太平洋地域における小島嶼開発途上国等の取組に協力してまいりました。
- また、国際協力機構（JICA）を通じ、アフリカ、アジア、大洋州、中南米等の諸外国における NCDs 対策プロジェクト（※）への支援を続けており、各国の保健医療サービス提供能力の強化や、高血圧、糖尿病、がん対策等の推進に協力しております。

※ 展開事例

- ・ ウズベキスタン（2021-2026 年）
NCDs 対策に関するヘルスプロモーションの強化、保健サービス提供能力の強化
- ・ カンボジア（2024-2028 年）
保健省および対象州の高血圧・糖尿病、子宮頸がん対策能 力強化
- ・ セネガル（2023-2028 年）
NCDs の予防、早期発見・治療、継続的治療が可能な保健医療サービス提供モデルの構築
他、バングラディシュ、フィジー、ドミニカ共和国等でも類似の取組あり

- 加えて、円借款や無償資金協力による医療施設・機材整備を通じた NCDs の診断治療能力強化、民間企業・大学・NGO 等の技術や知見を活かした検診促進事業、ライフコ

ースを通じた栄養改善に焦点を当てた NCDs 予防等の支援に取り組んできたところです（※）。

※展開事例

- ・ インド円借款「タミル・ナド州都市保健強化事業」（2016 年 3 月 LA 調印）
 - ・ タイ民間連携事業「大腸がん集団検診普及促進事業」
 - ・ モンゴル技術協力「学校給食導入支援プロジェクト」（2021-2025 年）
- こうした取組を通じ、引き続き、脆弱な人々、周縁化された人々への対応の重要性を鑑みた支援を続けてまいります。

5. おわりに

- 世界各国の知見を学び、さらなる NCDs 対策を推進するとともに、成功と課題の両面ある日本の経験を役立てていただけるよう、国際社会に共有していきたいと考えています。
- ご清聴ありがとうございました。

（注釈含め字）